

第2学年1組 国語科学習指導案

日 時：令和5年6月30日（金）5校時
場 所：浜田市立松原小学校 2年1組教室
指導者：
支援者：

- 1 単元名 ○○○博士になって、家の人に「○○○のひみつ」を紹介しよう
- 2 教材名 共通学習材・・・・・・・・「たんぽぽ」 東京書籍2年上
「かがくのとも傑作集」より・つくし（甲斐信枝） ・すみれとあり（矢間芳子）
・たんぽぽ（甲斐信枝）
「見つけよう！草花のちえ」より ①たんぽぽ・さくら 他 ブックリストを参照
- 3 学 級 松原小学校 2年1組 18名

4 単元づくりの構想

本単元で付けたい力

- ① 順序を考えながら内容の大体を捉え、重要な語や文を選び出す力。
② 読んで分かったことや考えたことを伝える力。

情報活用能力指導の観点・系統性

- 情報の整理 h 絵や写真を読み取る
3年では 書き手の工夫を考えながら
図、表、絵、写真を読み取る
- 情報の整理 k 付箋に書く
短い言葉や文を書く
3年では 情報カードに書く
要約
- 表現・共有 n 順序よく話す
3年では 相手に分かりやすい発表を
する

教材の特質

共通学習材「たんぽぽ」は、児童に身近なたんぽぽの生態について、観察に基づき丁寧に説明した文章である。話題提示の後で、たんぽぽの各部について（事柄の順序）、後半では一日の内の花の様子、仲間の増やし方について（時間の順序）順に説明されている。そのため、2年生で付けたい説明の順序をとらえる力をつけるのに適した構成である教材といえる。

植物を選ぶ段階で紹介する本は、付けたい力（順序性）に視点をあてて選定した。選び出した重要な語や写真、絵などをもとに、相手に説明する学習活動に向かうために、分かりやすく見やすい教材に絞って選ばせることとした。

本単元に関わる子どもの実態

省略

5 研究の重点とのかかわり

(1) 視点1 情報活用能力の系統的指導

① 学習の見通しをもたせる

単元を見通した計画表を掲示しておき、毎時間のはじめに全員で確認する。視覚化し、全員でそれを共有することで、単元のゴールを子どもが理解し、今どんな姿であればゴールにたどり着けるのか自分の学習状況を確認することができる。そして、この単元で自分たちはこんな力をつけるのだ、こんな力をつけるためにこの言語活動をしてゴールを目指すのだという主体的な学びにつなげていきたい。これを繰り返すことによって、将来子ども自身が課題を設定したり単元の学習計画を立てたりすることを可能にしていきたい。

② 主体的な読みを育むための手だて

自分はこんな思いや考えを、この相手にどうしても伝えたい、自分はこの本がお気に入りだ、この文が好き、この疑問についての情報をもっと知りたいといった、子どもの主体的な言語に対する意識を大切にしたい。本単元では、自分が選んだ植物のひみつを読み取る中で、「すごい!」「驚き!」「絶対教えてあげたい」「もっと知りたい」という思いや願いを重視して言語活動を進めていく。こういった活動が、主体的に読み取り、言語活動を進めていく原動力となるように支援していきたい。

(2) 視点2 要約学習の実践

① 全校「要約トレーニング」の実践

今年度6月から全校で週1回「要約学習」に取り組んでいる。各学年に応じた内容で積み重ねていくことにより、情報活用、読み取りにおける一つのアイテムを獲得することをねらっている。3年生以上では、【文章を読んでキーワードをつかむ→図式化する→図式をもとに相手に説明する→話したことを文章にする】という手順で行っている。低学年では発達の段階に応じて、絵や写真の活用、聞くことを大切にしながら行っている。

② 各教科、領域等での活用

本単元では、要約学習のエッセンスを取り入れて読み取ることに挑戦している。【文章を読む→キーワードをつかむ→付箋に書く→付箋と絵、写真をもとに相手に説明する→話したことを書く】という手順で読み取っていく。

③ 学習で身に付けた「言葉」「言葉の力」の蓄積

本単元で獲得した言葉と、「説明の順序」についての言葉の力を「要約学習コーナー」に貯めていく。他学年の学習の様子と共に掲示していくことで、今後の学習に生かしていきたい。

(3) 視点3 言語活動、言語環境の充実

子どもの「知りたい」「伝えたい」といった思いを重視し主体的に課題解決していくために、シリーズで読む、好きな作品を見つけて読む、目的に応じて本や文章を探して読むといったことが可能となるようにする。また、自分の本を絞り込んだり、相手に紹介する視点を読み取る時間には、学校司書と連携し一人一人の思いをつかみながら授業を進めるようにする。

6 単元の目標

(1) 時間的な順序や事柄の順序など、情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることができる。【知識及び技能】(2) ア

(2) 順序を考えながら文章の内容の大体を捉え、重要な語や文を考えて選び出すことができる。

【思考力、判断力、表現力等】C(1) ア、ウ

(3) 身近な植物の仕組みについて書かれた説明文に興味を持ち、文章を読んで分かったことや考えたことを伝えようとする。【学びに向かう力、人間性等】

7 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①時間的な順序や事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	①「読むこと」において、順序を考えながら内容の大体を捉えている。C(1)ア ②「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ	①進んで順序を考えながら文章の内容の大体を捉え、分かったことや考えたことを伝えようとしている。

8 単元の指導計画（全12時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
第一次	1 2	・学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。	・学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しがもてるようにする。	
第二次	4 5 6 7 8 9 10 11 本時 12	たんぽぽ博士になって・・・ ・「たんぽぽのしくみ」「増やし方」について説明するために必要な大事な言葉、文を読み取り印をつける。 ・付箋に書き出す。 ・絵、写真、付箋をもとに友達に説明する。 〇〇〇博士になって・・・ ・自分が選んだ植物について、どの部分に着目して紹介するのか考えながら読む。 ・「しくみ」「増やし方」について説明するために必要な大事な言葉、文を読み取り印をつける。 ・付箋に書き出す。 ・絵、写真、付箋をもとに友達に説明する。 ・リーフレット、回転紙芝居の形にして家の人に紹介する準備をする。	・1年生でやった説明文の学習を思い出させる。 ・共通学習材「たんぽぽ」の全文シート、挿絵を使いながら文の全体を「説明文の家」でとらえさせる。 ・時間の経過による変化がとらえにくい場合は、動作化を取り入れて読み取らせる。 ・大事な言葉、文を選び出した後は、相手に説明するために本当に必要な言葉、文を吟味して付箋に書くように伝える。 ・共通学習材「たんぽぽ」を読み取って作ったリーフレット（事柄の順序）、回転紙芝居（時間の順序）を確認し、〇〇〇博士として読み取ることの見通しをもたせる。 ・家の人に紹介したい「しくみ」「なかまの増やし方」を見つけるという意欲をもたせる。 ・なかまの増やし方を読み取るためのワークシートに順序を表す言葉、説明をするために重要な言葉を付箋に書いて貼ることで、全体の流れをつかませる。	【知識・技能①】 発言・観察 ・本を読み進めている様子の確認 【思考・判断・表現①】 観察・ワークシート ・選び出した語の付箋をもとに、伝えたり、書いたりしている内容の確認 【思考・判断・表現②】 発言・観察・カード ・教材文への書き込み、付箋の内容の確認 【主体的に学習に取り組む態度①】 観察・ワークシート ・自分の作品に生かすために友達の説明の仕方のよさを意識して聞こうとする姿の確認
第三次		・家の人に紹介する。	・授業の様子を家庭に知らせ、家の人に紹介する時間を設ける。感想をもらい意欲につなげる。	

9 本時の指導（11／12時間目）

（1）本時のねらい

自分が選んだ植物について読み、重要な語や文を考えて選び出し、伝えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】C（1）ア、ウ

（2）本時の展開

学習活動	・教師の支援	【評 価】
1. 本時の課題をつかむ。	・本時のめあてと学習の進め方を確認する。	
	〇〇〇博士になって、友達に「〇〇〇のなかまのふやし方」を紹介しよう。	
2. 自分の植物の文章を確認する。	・共通学習材「たんぽぽ」の全文シートと自分の本のシートを見ながら、読み取り方の確認をする。	
3. 選んだ言葉を付箋に書き出す。	・共通学習材で学んだ書き方（ワークシート）を確認してヒントにしながら書くことができるようにする。	
	・友達と相談してもよいことを知らせ、困ったことや発見したことを自由に交流できるようにしておく。	
	・前時の書き込み（大事な言葉）を確認し、さらに付箋（黄色）に書き出す言葉を吟味することを伝える。	
	・順序を表す言葉を付箋（ピンク）に書き、説明の時に生かすように助言する。	
4. ペアの友達と紹介し合う。近くの先生に紹介する。	・付箋の順序を確認することの大切さを伝える。	
	・付箋、絵、写真を見せながら、相手に分かりやすく伝えるコツについて確認する。	
	・友達の説明を聞いて発見したよさについて確認する。	
5. 伝えた内容を文章に書く。	【思考・判断・表現②】発言・観察・回転紙芝居 ・自分で調べた植物のなかまの増やし方について、選び出した重要な語をもとに伝えたり、書いたりしている。	
6. 学習を振り返る。	・学習を振り返り、本時の学びを実感させたり、次時の課題を確認したりして学習のまとめとする。	

10 本時の評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
・選んだ植物のなかまの増やし方について、選び出した重要な語をもとに、順序に気を付けて分かりやすく伝えたり、書いたりしている。 ・書いた文章を見直したり、友達にアドバイスをしたりしている。	・選んだ植物のなかまの増やし方について、選び出した重要な語をもとに伝えたり、書いたりしている。	・共通学習材で重要な語を選び出したことを共に確認し、選んだ植物の文章と一緒に見て読み方のコツを教える。 ・ペアの友達同士で交流する時間を大切に、学ぶヒントが得られるようにする。

Ⅰ Ⅰ 研究協議の記録

大事な言葉を書き出す

- ・付箋を使うことで、大事な言葉を抜き出すことができていた。付箋のサイズを考慮する必要がある。
- ・大事な言葉が付箋で抜き出されるが、その後その言葉をもとに相手に伝えるのが難しそうだった。
- ・「たんぽぽ」の読み取りが活かされているのが分かった。

ワークシートの工夫

- ・付箋の色分けに合わせ、ワークシートの色分けがされており、順序を考えながら伝える助けとなっていた。
- ・本単元で学習したことが「はかせブック」に集約されており、一人一人のやる気につながっていた。

ペアでの伝え合い

- ・キーワード、矢印、絵、その他の書き込みなどにより、それを見せながら伝える姿が見られた。
- ・相手に伝える場面では、視点を持って伝えたり聞いたりできるようにするとよいのではないか。また、アドバイスをしたり質問をしたりする時間があるとよかった。

文章を書く力

- ・図式化したワークシートをもとに相手に伝えた後、文章にしていこう姿にこれまでの取組の様子が伝わった。ワークシートの工夫により、段落を意識して書くことができる子どもが多かった。

使う本の選び方

- ・重要な言葉が本の中にない本もあったのではないかな。
- ・どのように本を選定していったらよいのか。

【指導・講評】

- ・情報活用能力松原小学びの指導体系表の活用について
次の学年にむかう系統性が指導案からも確認することができる。
浜田市等の指導体系表も参考にしてほしい。
- ・情報カードの活用について
できる子どもはより深い学びへ
- ・ワークシートの活用
「たんぽぽ」の実践での課題から、色、形式などの見直しがあった。
- ・本の選書について
どのようなねらいで、どの程度の読み取りをさせたいのかを明確にもって選書することが大事。
- ・付箋の活用について
貼り付け、貼りがえができることで、順序を考えることにつながった。
順序に関わる大切な接続語をピンクの付箋にするなど色分けをすることで分かりやすくなった。
付箋（接続語）によって、段落を意識することができ、文のまとまりをとらえることができた。

Ⅰ Ⅱ 考察（成果・課題）

学習の見通しをもつ

単元計画表を教室に掲示し全員で確認しながら学習を進めたことで、1時間ごとの学習におかう見通しをもつことができた。どんな力をつけるために「たんぽぽ」「自分が選んだ本」を読んでいるのかを常に意識させることで、より主体的にゴールを目指す子どもが増えたと感じる。

本の選書

単元のねらいを明確にもち、どのような言語活動を目指すのか具体的に考えることで子どもに読ませたい本を絞り込んだ。今回は、順序を考えながら内容の大体を捉えさせることをねらい

とし、植物の増やし方、植物の命がつながってまわっていくことがイメージできる本を選んだ。一人一人違う植物にしたことで、「この植物はすごいんだ。」「この部分を絶対に教えてあげたい。」「びっくりした。」「もっと調べてみたい。」という思いや願いをもつことができたを考える。そして、より主体的な読みを育むための手立ての一つとなったのではない。

一方で、同じ植物をペアで調べていくよさもある。本の選書は、ねらいによって左右される大事な過程だと実感した。

情報活用のか

文章を「説明文の家」でとらえることを2年間で継続したことは、文章を読むことに加え、作文を書く際にも力を使うことができた。

リーフレット、回転紙芝居といったねらいに迫ることができ、子どもが主体的に学習に向うことができる言語活動を工夫することができた。

情報カード、出典など、選書、授業での読み取りなどにおいて常に学校司書と連携して進めることで、図書館活用の力を伸ばすことができた。

要約学習で得た力を使って

本授業では、要約学習により付きつつある力を使うことを試みた。

○大事な言葉を選び出す。

↓ 自分が選んだ植物の本の文章をよく読み、大事な言葉（キーワード）に印をつける。さらに、印をつけたキーワードの中から大事な言葉を選び、付箋に書いてワークシートに貼り付ける。

○図式化する。

↓ ワークシートに貼った付箋をもとに図式化する。（絵を描く。矢印をつける。説明に必要な書き込みをする。など）

○図式をもとに相手に説明する。

↓ ワークシートを見せながら、自分の選んだ植物がどうやってなかまを増やしていくのか説明する。また、ペアの友達の説明を聞く。

○説明したことを文章にする。

順序に気を付けながら、文章にする。

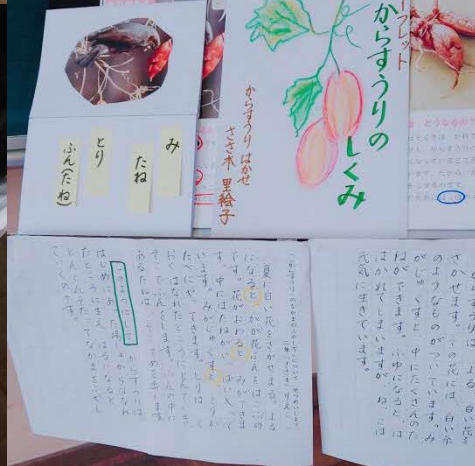
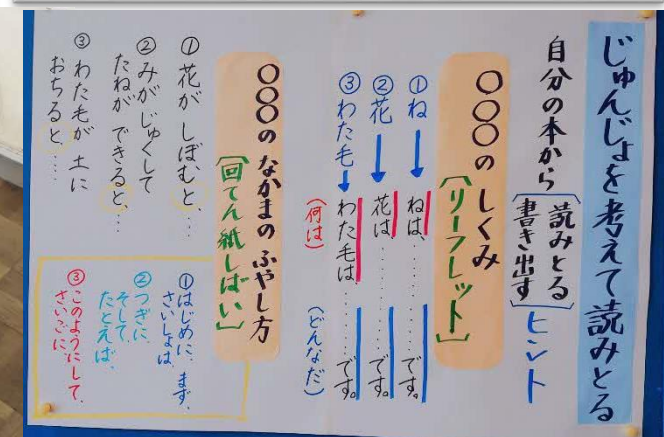
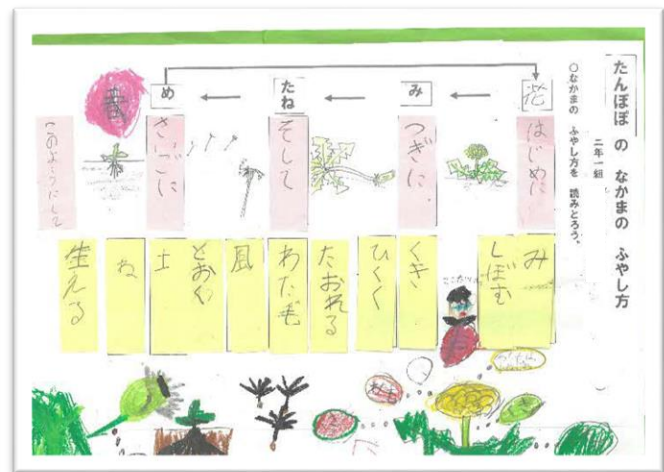
○これまでの要約トレーニングで付けた力（大事な言葉を選び出す）（選んだキーワードを付箋に書く）（付箋をはってそれをもとに図式化する）（図式化したものをもとに相手に説明する）（説明したことを書く）を使って読みとる姿が見られた。

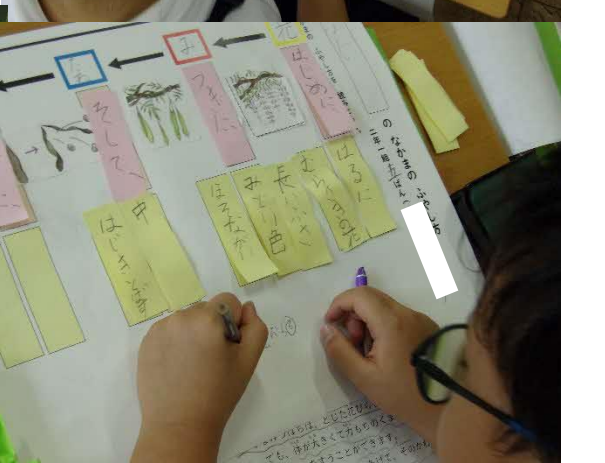
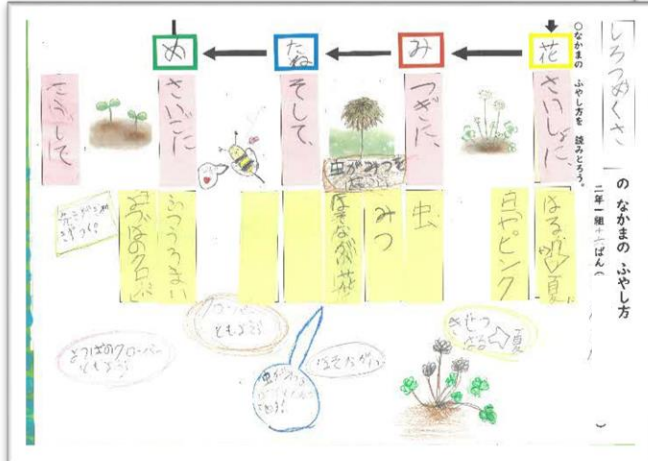
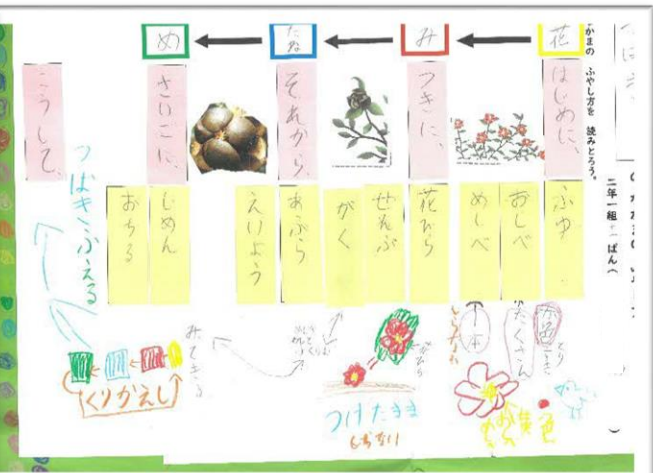
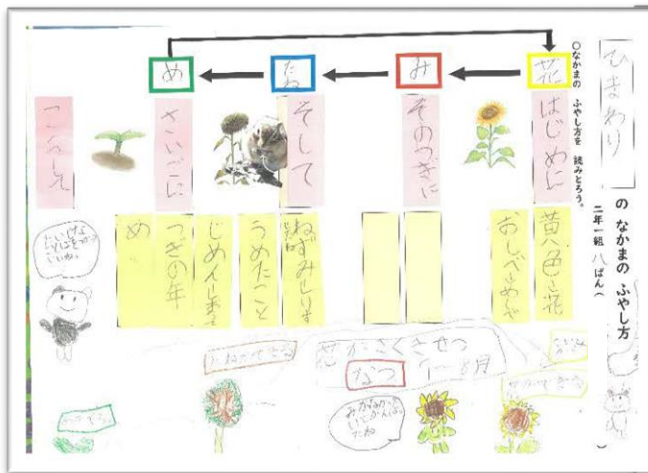
○繰り返しトレーニングすることで身に付く大事な力の一つであることが分かった。

○一連の要約学習の流れを繰り返し練習していくことで、読み取る、選び出す、話す、書く力につながるということが分かった。

●付箋の数を各項目で3枚までとし、言葉を選び出したが、その後で説明する段階でキーワードだけを見てもつながらず伝えるのが難しい子どもがいた。付箋を書いた後での図式化をもっと丁寧に行わなければ、次の段階での説明は難しいことが分かった。

●よって、今回1時間の中に要約学習の一連の流れ全てを盛り込むのは無理があったと感じる。図式化までを丁寧に行い、説明することに自信がもてるワークシートに仕上げる1時間、ワークシートを見て相手に説明し、文章にする1時間と2時間構成にすることで、より丁寧な読み取りになったのではないかと考える。





「(つばき)のなかまのふやし方」
について せつめいします。
二年

はしめに、花がさきます。花からを
せんぶつけたまきおちます。それ
をがくのこります。あぶ
らぐえいようになります。あぶ
らにおちてめがでます。たぬがしめ
こうしてつばきはながまを小や
していきます。

花からせん
ぶつけたまき
のこるおち
てあぶらぐ
えいよう

「(はす)のなかまのふやし方」
について せつめいします。
二年

はしめに、花がさきます。たぐさ
クワのたがさきます。たぐさ
あるさきな花がさきます。あな
つぎに、たががさきます。あな
の中は、たががさきます。あな
そのつぎに、水の中からはすのは
るにさきます。水の中からはすのは
はがさきます。はがさきます。は
さき、空気がないと、かれています。は
は、空気がないと、かれています。は
ます。こうして、はすはながまをふや
していきます。

じょうほう カード		なまえ()
テーマ: 長い	どこに 長くのびるの?	6月 28日
地下鉄は 地下で走る。 中に 長くのびかま う、やして いきます。		
出典	(ほんのりもあそび) 赤たのまわりくしご、 ずかん②	(くらぶもあそび) P52

[illegible]